

# 木の輪

わっこ

mori no wakko



幕別町では令和2年度より森林環境譲与税を活用して、町有林の材を使用し町内の加工工場で作成した「森の輪 (Wakko)」を新生児に配布します。

## 「森の輪 (Wakko)」ってなあに？

「赤ちゃんが初めて木と出会い、木のぬくもりに触れながら健やかに成長して欲しい」という願いを込めて製作した無垢材の木製品です。

この「森の輪 (Wakko)」は、生後3カ月程度の赤ちゃんが主体的に関わることでできるものとなっており、木と共に生活し、成長していくことができます。



## 「森の輪 (Wakko)」の使い方は？

「森の輪 (Wakko)」は、主に「にぎる」「なめる」「かむ」といった、乳幼児の心身の発達に必要な動作を促します。口に入れるものなので、日本食品分析センターで「ヒ素」「重金属」「フェノール類」「ホルムアルデヒド」の4項目の試験を行っており、安全性を最も重視しています。

## 「森の輪 (Wakko)」の目的は？

「森の輪 (Wakko)」には3つの目的があります。

- 【保育】 生まれた赤ちゃんの成長にとって必要になる優れた木の工芸品を贈ること
- 【木育】 生まれた赤ちゃんが、手にするもの、口にすものとして木製品を提供することで、木に親しみを育てる土壌をつくる
- 【地育】 地域の子育て世代に対し、地域の資源でできた木製品を使ってもらうことにより、地域の産業、環境を考える機会となる

## 森林環境譲与税とは？

森林の持つ公益的機能は、地球温暖化防止のみならず、災害防止や水源の養成、景観維持など多くの機能があります。

その森林をきちんと整備したり、人材育成や木材利用の促進、普及啓発などをするために「森林環境税」が創設され、令和6年度から1人あたり年額1,000円の税を負担することになります。

それに先立ち、現在の森林を取り巻くさまざまな課題により早く対応するために「森林環境譲与税」として令和元年度から全国の各自治体に交付されています。

4月9日、保健福祉センターで行われた3カ月検診の際に、1回目の贈呈式が行われ、町長から「森の輪 (Wakko)」が手渡されました。

